

国民的人気作家 三島由紀夫が駆け抜けた、
一九六八年から一九七〇年という激動の
三年間をクローズアップ
大作「豊饒の海」の第三巻、第四巻を軸に、
三島が最も注目された時代に迫ります

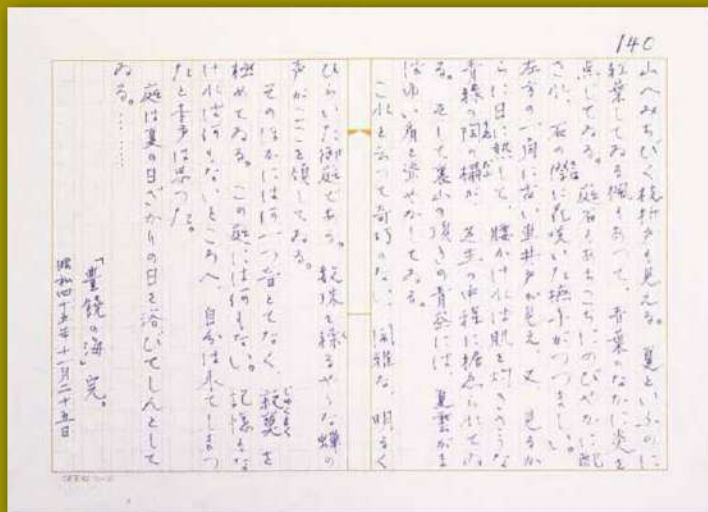
三島由紀夫没後50年記念特集展

三島由紀夫の1970

時代との疾走'68~'70

2020.8/5(水) ~ 2021.8/8(日)

三島由紀夫文学館 展示室内



「天人五衰」原稿・最終頁

三島由紀夫 没後50年記念事業

メモリアル・アンバサダーに
演出家 宮本亞門氏が就任



※世情により内容が変更になる場合がございます

山中湖 文学の森 三島由紀夫文学館

〒401-0502 山梨県南都留郡山中湖村平野506-296
TEL 0555-20-2655 FAX 0555-20-2656 E-mail:info@mishimayukio.jp

開館時間: 10:00~16:30(最終入館16:00)

料 金: 展示の観覧には両館共通チケットが必要となります

休 館 日: 毎週月、火曜日(祝祭日の場合はその翌日)

12月29日~翌年1月3日(但し、4月28日~5月6日は開館) 資料点検日(不定期)

主催: 三島由紀夫文学館、山中湖村教育委員会

監修: 佐藤秀明(三島由紀夫文学館 館長)、山中剛史(三島由紀夫文学館 研究員)

協力: 2020映画「三島由紀夫vs東大全共闘50年目の真実」製作委員会

公益財団法人 東京二期会・細江英公・横尾忠則・下田 東急ホテル・高崎市美術館・千葉県勝浦市



山中湖文学の森公園
三島由紀夫文学館
徳富蘇峰館

三島由紀夫文学館 アクセス

【路線バス】

富士山駅から約25分 / 御殿場駅から約40分
文学の森公園前バス停下車徒歩約5分

【高速バス】

中央高速バスで旭日丘バスターミナル下車徒歩約8分

【マイカー】

山中湖I.C.から国道138号を御殿場方面へ4km

三島由紀夫文学館

検索



三島由紀夫没後50年記念特集展

三島由紀夫の1970 ー時代との疾走'68~'70ー



2020映画『三島由紀夫vs東大共闘 50年目の真実』製作委員会©

三島由紀夫没後50年のメモリアル・イヤーとして、最期の一年である1970年の三島由紀夫の姿をさまざまな資料から振り返り跡づけます。

本展は、文学者としてライフワーク「豊饒の海」を完結させ、自衛隊体験入隊や、2020年5月に封切られた映画『三島由紀夫vs東大共闘 50年目の真実』の協力も得て、東大共闘との討論など、行動人としての姿も伝えつつ、三島の人生をまとめた「三島由紀夫展」や没後刊行の書物などを紹介、展示。

死後を見通して文学創作と行動に打ち込んだ1970年にかかわる創作ノート、原稿、初出雑誌、初刊単行本、展覧会 ポスターその他貴重な資料によって展観します。



「暁の寺」原稿



「三島由紀夫展」開催前日に会場を見回る三島夫妻

演出家 宮本亞門氏
メモリアル・アンバサダー就任

10/24(土) 特別講演会開催(予定)
※詳しくはHPをご覧ください

開館20周年迎え、記念事業の一環として作成された動画にご出演いただいた宮本亞門氏。その視点からみた三島由紀夫という人物、その作品等に関する話をもっと聞きたい、知りたいという多くの声にお応えて、宮本亞門氏が記念事業のメモリアル・アンバサダーに就任いたしました。世界を舞台に活躍する芸術家の目を通して、三島由紀夫の新たな魅力を発信いたします。

常設展リニューアル

三島文学は研究者、愛読者だけのものではない! 三島由紀夫をよく知らない人にこそ伝えたい魅力がある! “学習した満足感”をテーマに、「三島由紀夫」の魅力を再発信いたします。



メモリアル・アンバサダーのコメントが館内を彩る!!

没後50年を迎え、改めて三島由紀夫という人物と作品の魅力を宮本亞門氏が紹介。入館することでしか得ることができない「三島の世界」をメモリアル・アンバサダーがお伝えます。



NHK連ドラ「エール」に登場!! 伝説の歌手『双浦環』のモデル、三浦環
「山中湖と三浦環 ~やまなかこを愛したプリマドンナ~」展

～9月30日(水) 徳富蘇峰館内(三島由紀夫文学館隣接)

(主な展示内容) *愛用のピアノ *着物 *公演風景写真 *山中湖でのスナップ写真 *古岡裕而氏(連ドラ主人公)の紹介 *三島由紀夫が、独演会観劇をもとに書いた小説「蝶々」の未発表原稿と構想メモ